

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

本院では、下記の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用されることを希望されない患者さんもしくは患者さんの代理人の方は、下記の連絡先までお申し出ください。

1. 研究課題名	小葉癌の発症・進展における2型糖尿病の影響		
2. 対象患者	以下の期間に、弘前大学医学部附属病院、青森県立中央病院、青森市民病院、国立病院機構弘前病院、八戸市立市民病院、市立函館病院、三沢市立三沢病院において、乳癌(小葉癌)の診断を受けた患者さんを対象として実施します。		
3. 対象となる期間	平成16年 1 月 1 日 ~ 平成29年 12 月 31 日		
4. 実施診療科等	弘前大学医学部附属病院 消化器外科・乳腺外科・甲状腺外科 弘前大学大学院医学研究科 消化器外科学講座、分子病態病理学講座		
5. 研究責任者	氏名	井川 明子	所属 弘前大学大学院医学研究科 消化器外科学講座
6. 共同研究機関 (共同研究機関研究責任者)	青森県立中央病院(病理部:黒滝日出一) 青森市民病院(病理診断科:楠美智巳) 市立函館病院(副院長:下山則彦) 国立病院機構弘前病院(臨床検査科:八木橋法登) 八戸市立市民病院(臨床検査科:矢嶋信久) 三沢市立三沢病院(検査技師:成田靖之)、あいざわクリニック(院長:相沢俊二)		
7. 研究の意義	乳癌は日本人女性の11人に一人が生涯にかかると言われ、新たな危険因子や発症機序の解明、新規治療法の確立が求められています。その乳癌の約5%を占めるのが小葉癌です。一方で、2型糖尿病は多くの癌の罹患リスクを高めることが分かっており、2型糖尿病による炎症や酸化ストレス亢進を介した遺伝子の修飾(エピジェネティクス)が、発癌に関わっている可能性が報告されています。これまでに2型糖尿病が小葉癌の発症や進展に影響するかを評価した研究はなく、今回の検討から2型糖尿病を有する小葉癌の新たな治療法が確立する可能性があります。		
8. 研究の目的	2型糖尿病は多くの癌の罹患リスクを高めることが知られていますが、それによる乳癌遺伝因子への影響は未だ解明されていません。本研究では、小葉癌の発症、進展における2型糖尿病の影響を明らかにし、新規治療法の確立をめざすものです。		
9. 研究の方法 (使用・提供する資料等および外部に提供する場合はの方法等)	1. 手術時に摘出された組織をホルマリン固定し、切り出し後にパラフィン包埋した組織ブロックを使用します。 2. 病理標本を顕微鏡にて観察し、腫瘍部、腫瘍組織近傍正常部を評価します。 3. パラフィン包埋された組織ブロックを薄切し、DNA抽出キットを用いてDNAを抽出、適切な処理後にPCR、電気泳動にて遺伝子のメチル化の有無を確認します。本解析の対象は、子孫に受け継がれない遺伝形質であるエピジェネティクス変化です。希望される場合は、解析結果を開示します。		
10. 個人情報の保護	課題経過中及び終了後において、調査結果については、研究目的以外に使用することはなく、対象者の個人情報は外部に漏らすことはありません。本研究で得られた個人情報は、データの統計的分析にのみ使用され、学会発表においても個人を特定できる情報を削除し発表します。		
11. 利益相反に関する状況	共同研究者の一部は大鵬薬品工業株式会社、中外製薬株式会社、アステラス製薬株式会社、株式会社ヤクルト本社から寄附金を受領しており、利益相反状態にあります。しかし、これらは本研究の資金源ではなく、これにより研究成果が歪められるようなことはありません。本研究の利益相反状態については、弘前大学大学院医学研究科医学研究(臨床研究等)利益相反マネジメント委員会の審査を受けています。		
12. 連絡先	弘前大学大学院医学研究科 消化器外科学講座 井川 明子 (E-mail) igawa-a@hirosaki-u.ac.jp		
	電話	0172-39-5079	FAX 0172-39-5080